

平成27年度事業報告書

社会福祉法人 コージー南国

1、事業全般について

平成27年度は、コーギー南国にとって試練の年となった。平成26年度の施設運営を巡るトラブルによって、平成27年度4月当初は、定員30名(就労継続支援B型20名・生活介護10名)に対し、実人員は8名(就労継続支援B型3名・生活介護5名)であった。

平成27年度に法人・事業所が取り組むべき最優先課題は、如何に利用者を増やし経営安定化を図るか、であった。

近隣の地域活動支援センターを回り、利用者の紹介をお願いして回ると共に、東部地域の就労支援に係る事業所情報交換会等の場において、他事業所にも利用者紹介のお願いをした。

また、地域活動支援センターが利用希望者を伴い見学に来た際、さらに山田養護学校の進路担当の先生が実習打ち合わせ等で来所される中で、コーギーの利用者とスタッフの関わりが、ゆったりとしたところが良いとの評価をいただく。

また、他事業所の方からも、コーギーがいい雰囲気になってきている。との評価もいただく。その結果、徐々にではあるが、利用者の回復が図られてきた。

2、就労継続支援B型

B型は平成27年度当初、4月から6月中旬までは、主たる事業所なんこくが利用定員10名に対し、4月から5月中旬利用者1名、5月中旬以降利用者0名、従たる事業所の浜幸ゆうあい利用定員10名に対し、6月中旬まで3名であった。

なんこく、ゆうあい合わせて利用定員20名に対し、利用者はゆうあいの3名のみであった。

しかし、人員配置基準上、利用定員に見合う人員配置はしなければならず、しかも場所も離れており、運営効率面も悪いため、浜幸ゆうあいを一時休止にして、ゆうあいをなんこくに移して、B型定員を20名から10名に減員とする。

それによって、浜幸ゆうあいの人員配置数1.3人分が不要となり、その分人員配置が楽になった。

また、浜幸ゆうあいの作業室が屋根裏でまったく採光も通風もなく、作業環境としても好ましくない環境であったため、なんこくに移ることで利用者の作業環境も改善が図られた。

一方、なんこくでの箱折完成品を置くスペース(倉庫)が広く必要なのと、箱の組み立て前の原材料のストックも置く場所が必要となり、正面玄関から階段上り口までの廊下幅の約半分が、箱の材料置き場となっている。これは防災上問題であり、検討課題となっている。

就労B型の利用者も、浜幸と比べて材料を頻繁に1階から2階まで運ばなければならず、また仕上がった箱を1階へ降ろす作業と併せ、労力が増大した。

一方、時間の経過につれ、元ゆうあいの利用者も慣れてきて、作業の合間にスタッフとジョークのやりとりや、笑顔でコミュニケーションが取れ、支援環境としては良い環境が整ったといえる。

反面、利用者側にとっては、長年慣れ親しんだ、浜幸ゆうあいからなんこくに移ることに抵抗を感じ、当初は移動を拒否する利用者もいた。

なんこくに移る理由が、利用者にとってなんの関係もない事業所の都合によってであり、そのことによる利用者の精神的ストレスも少なからずあったと思われる。かかる意味においては、残念ながら、理念でもある利用者主体（利用者本位）とはかけ離れた移動であったことを忘れてはならない。

また、利用者間での関係性のところで、作業能率面や会話のやりとりなどで、感情をあらわにする場面も見られた。そうした場面で職員として、如何に適切に対応すればよいのか、についても今後の課題である。

また、今年に入り新たな利用者として、精神疾患を有する利用者が利用するようになり、精神疾患に対する専門知識及び利用者への対応・関わり方も今後スタッフとして取り組むべき課題となっている。

イ、就労継続支援B型実施報告

留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一つ一つの箱の名前と折り方を覚える。 ○ 1日の作業量を自分で把握できるようにする。 ○ 箱の種類別ひもの強弱を理解する。 ○ ミスを出さない様、丁寧に箱折り作業を行う。
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ (浜幸) 箱形成作業 ○ ひもかけ作業
実施評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ ミスが少なく、丁寧に折れている。 ○ 自己の作業内容を理解し、スムーズに作業を開始できた。 ○ 作業を終えた後「次は何をしたら良いですか」と聞くなど意欲が感じられた。 ○ 箱の折り方、ひものかけ方等わからなければ、職員に聞き行うことが出来ている。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ ミスなく、箱折作業をすることを基本に継続的に取り組むこと。 ○ 箱折の繁忙期(6.7.8月)利用者の負担を考慮し、作業の分担や応援体制をとることが必要。 ○ 箱折も繁忙期・閑散期があり、閑散期に他の作業を用意することが必要。 ○ 利用者の作業適性も考慮し、箱折以外の作業を開拓する必要あり。

ロ、就労継続支援B型の日課は以下のとおり

時 間	支援サービス内容
～ 9 : 0 0	出勤・送迎
9 : 0 0 ～ 9 : 2 0	朝礼・体操
9 : 2 0 ～ 1 0 : 3 0	作 業
1 0 : 3 0 ～ 1 0 : 4 5	休 憩
1 0 : 4 5 ～ 1 2 : 0 0	作 業
1 2 : 0 0 ～ 1 3 : 0 0	昼食・休憩
1 3 : 0 0 ～ 1 4 : 3 0	作 業
1 4 : 3 0 ～ 1 4 : 4 5	休 憩
1 4 : 4 5 ～ 1 5 : 3 0	作 業
1 5 : 3 0 ～ 1 5 : 4 5	清 掃
1 5 : 4 5 ～ 1 6 : 0 0	終 礼
1 6 : 0 0 ～	帰宅・送迎

ハ、就労継続支援B型利用者の月別利用状況

月 別	開所日数	利用実人員	利用延人数	備 考
4 月	2 1 日	4 人	8 4 人	
5 月	1 8 日	4 人	6 6 人	新規利用 1 名増
6 月	2 2 日	3 人	6 6 人	
7 月	2 2 日	3 人	6 6 人	
8 月	2 1 日	3 人	6 0 人	新規利用 1 名増
9 月	1 9 日	3 人	5 4 人	
1 0 月	2 1 日	3 人	6 0 人	
1 1 月	1 9 日	3 人	5 7 人	新規利用 1 名増
1 2 月	1 9 日	3 人	5 7 人	
1 月	1 9 日	2 人	3 8 人	利用者 1 名減、
2 月	2 0 日	3 人	4 2 人	新規利用 1 名増
3 月	2 2 日	4 人	6 2 人	新規利用 1 名増
合 計	2 4 3 日		7 1 2 人	

ニ、就労継続支援B型の月別作業収入・工賃は以下のとおり

月 別	箱の出荷数	作業収入	作業工賃	作業収入に占める工賃比率
4月	24,192箱	123,370円	91,100円	73.8%
5月	20,028箱	100,057円	76,814円	76.7%
6月	20,742箱	35,280円	84,840円	240.0%
7月	15,467箱	96,985円	70,965円	73.1%
8月	22,826箱	90,586円	128,560円	141.9%
9月	16,194箱	112,941円	70,425円	62.3%
10月	12,227箱	58,154円	55,050円	94.6%
11月	11,796箱	73,336円	65,788円	89.7%
12月	12,720箱	92,039円	98,650円	107.1%
1月	8,144箱	38,256円	36,325円	94.9%
2月	6,376箱	48,838円	35,350円	72.3%
3月	9,794箱	59,498円	31,875円	53.5%
合計	180,506箱	929,340円	845,742円	98.3%

3、生活介護

生活介護、平成27年度当初の利用者数は、4月4名、5月に1名B型から生活介護に移行し5名、同じく5月に1名新規利用が増え6名、8月に1名新規利用が増え7名、11月に1名新規利用増え8名、1月に1名新規利用増え9名、3月に山田養護の卒業生が2名増え、11名となり年度当初から7名増となった。

生活介護の利用者は、年齢幅及び個性幅共に広がってきており、利用者一人ひとりへの個別対応の必要性が、今まで以上に増すと同時に、対応の難しさも増してきているが、利用者一人ひとりの個性を尊重しつつ、スタッフが寄り添い、時に試行錯誤しながら、より適切な支援につなげてきている。

また、新規利用者には高齢化に伴って、かつて利用していた就労継続支援や一般就労作業等に気持ち的には望みを持っているが、能力的、体力的についていけなくなり、生活介護を利用するケースが増加傾向にある。

これは、多分いづこの知的障害関連施設にも共通した傾向といえる。

コーギー南国は、これからのこうした状況にも対応可能な人材育成に取り組んでいかなければならないと考える。

イ 生活介護の活動内容

- ① 作業活動 ② 音楽活動 ③ 音楽レク ④ 創作活動 ⑤ スポーツレク
⑥ 読み聞かせ ⑦ 喫茶コーギー ⑧ 散歩

①（作業活動）

留意事項	<ol style="list-style-type: none"> 1、日中活動時の様子観察、行動把握 2、こだわり・物事の考え方等への理解 3、コミュニケーションを深め、心的距離を縮める。 4、作業適正、得意作業、苦手作業を把握し作業提供する。 5、無理強いせず、利用者に選択してもらう。 6、家族からの情報を日常の支援に活かす。
実施事項	<ol style="list-style-type: none"> 1、個々の利用者のペースやこだわり(時間・物・場所・人等)に対し、日中活動時にこれらがどのように影響しているのか観察、必要な場合は注意をした。 2、日中活動中の不穏、興奮等の有無を観察。 3、朝のあいさつ及び日常会話が楽しめるよう、対話に努めた。 4、何をしたいのか、どちらにするか、利用者自らが判断(自己決定)できるよう努めた。 5、送迎時に、家族から前日夜、当日の朝の様子を伺った。
実施評価	<ol style="list-style-type: none"> 1、個々の利用者のペースやこだわり(時間・物・場所・人等)を理解しながらそれへの執着からの気持ちの転換を図れるよう働きかけ、効果も出た。一方イヤがり拒否する利用者は、本人の意思を最大限尊重することができた。 2、不穏、興奮がある時は、声かけ、体操、外の空気を吸う、また服薬等の早期対応が図れた。 3、作業時の進み具合の確認、行動を把握し、事故、トラブルを回避できた。 4、上記対応の結果、ささいな体調の変化も訴えることが出来、スムーズな指導、誘導が行ない易くなった。その意味において居心地の良い場所になってきている。 5、また、作業意欲を高め、作業能率が上がってきた。利用者の中には、作業する事。働くことに対する責任感、達成感、充実感を感じとることができた。 6、送迎終了時等に、スタッフ同士で情報を共有し、ヒヤリハット対策や、日中のある程度の行動予測が出来た。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 利用者の新たに出てくるこだわり、性格・行動特性を把握し、適宜に対応していくこと。 ○ 今後、新規利用者と現利用者との相性を考慮した作業時等の席決め ○ 加齢、季節、薬、体調不良等からの能力低下も考えられるため、日々の様子観察が重要。

②、(音楽活動)

留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生活機能の向上をめざす。 ① 音楽の持つ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の機能維持改善、生活の質の向上、行動の変容等の向上をめざす。 ② 活動を通して、仲間や職員と一体感を持つ。
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 始まりの歌・終わりの歌・全身たいそう・ゆびのたいそう・口の中の体操、季節のうた ② リズム遊び・うた遊び・手話
実施評価	<ul style="list-style-type: none"> ① 集団活動の苦手な利用者の参加も増え、楽しみながら、個々の障害機能に応じた維持・改善がみられてきた。 ② 個々の利用者が、出来る範囲で表現ができるようになる。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集団活動への参加が苦手な方への配慮の必要性。 ○ 個別活動としてできる課題を考える必要がある。 ○ 発表の場を作る。 ○ 利用者が増えたこと、年齢層も幅広いため、それぞれに適した課題、計画の立案が必要。

③、(創作活動)

留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 楽しみながら、指先を使うことで脳の活性化を図る。 ② 協力して作品を作ることで、利用者間の交流を図る。 ③ 季節や行事のものを取り入れ、目標を達成する喜びを味わう。
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ カレンダー制作(個人)・・・①、③ ○ 季節や行事を取り入れた協同作業による壁画・・・②、③ ○ 書く・塗る・折る・ちぎる・切る・貼る・・・①、②
実施評価	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの作業能力が把握できた。 (ハサミの使い方、折り方、ぬり方、書き方)
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ カレンダー制作については、継続して取り組む。 ○ 個々の利用者に応じたペース、作業内容を考慮する必要あり。

④、(スポーツレク)

留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ① 体を動かし楽しむ ② 気分転換を図る。 ② 他利用者と和をもち、楽しみながら全身運動を図る。 ③ 上半身運動・集中力の維持・向上 ⑤ 外気に触れると共に自然を楽しむ
実施事項	<ul style="list-style-type: none"> ① ボーリング・ ② ボールを使った運動(輪になりボールを横わたし・蹴りあい・ボール転がし) ③ 釣り ④ ゴルフボーリング ⑤ 散歩
実施評価	<ul style="list-style-type: none"> ① ピンに上手く当たると喜びの表情が多く見られた。 ② 身体の全身を使いながら、声を出し合っ楽しむことができた。 ③ パターを握ることは出来るが、当てるのが難しく、目と手の協応動作がうまく出来ていない。 ④ 磁石をつけた魚に、磁石のハリを付ける時集中できている。魚を釣り上げる動作が、腕の上下運動となっている。 ⑤ それぞれのペースで歩きながら四季の草花を見て、それぞれが感じ取った思いを豊かに表現できている。また車が通る際の危険回避もできている。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年齢層も幅広く、個々の障害レベル、身体状態に応じた活動計画が必要。 ○ レクを心からリラックスして楽しめるよう、場の雰囲気づくり、盛り上げ方 <p>気分の乗らないときは、無理強いせず本人の意思を尊重すること。</p>

② 生活介護の日課は以下のとおり、

時間帯	内容
～ 9:00	出勤・送迎
9:00 ～ 9:20	朝礼・体操
9:20 ～ 10:30	作業
10:30 ～ 10:45	休憩
10:45 ～ 12:00	作業
12:00 ～ 13:00	昼食・休憩
13:00 ～ 14:30	作業・レク・散歩
14:30 ～ 14:45	休憩
14:45 ～ 15:30	作業・レク・散歩
15:30 ～ 15:45	清掃

15:45 ~ 16:00	終 礼
16:00 ~	帰宅・送迎

③ 生活介護利用者の月別利用状況

月 別	開所日数	利用実人員	利用延人数	備 考
4 月	21日	4 人	83人	
5 月	18日	6 人	81人	新規利用1名増
6 月	22日	6 人	114人	
7 月	22日	6 人	109人	
8 月	21日	7 人	120人	新規利用1名増
9 月	19日	7 人	132人	
10 月	21日	7 人	145人	
11 月	19日	8 人	143人	新規利用1名増
12 月	19日	8 人	146人	
1 月	19日	9 人	163人	新規利用1名増
2 月	20日	9 人	180人	
3 月	22日	11 人	208人	新規利用2名増
合 計	243日		1624人	

④ 生活介護の月別作業収入・工賃は以下のとおり

月 別	作業収入	作業工賃	作業収入に占める 工賃比率
4月	34,268円	18,473円	53.9%
5月	22,253円	15,108円	67.8%
6月	23,520円	21,933円	93.2%
7月	10,776円	26,339円	244.4%
8月	10,065円	16,800円	166.9%
9月	12,549円	13,400円	106.7%
10月	6,462円	12,400円	191.8%
11月	8,148円	15,800円	193.9%
12月	10,226円	14,900円	145.7%
1月	4,251円	14,000円	329.3%
2月	15,115円	18,100円	119.7%
3月	17,065円	17,400円	101.9%
合計	174,698円	204,653円	151.2%

平成27年度の職員体制

職 種	常 勤	非常勤	配置基準
管理者	1 (兼務)		1
サービス管理責任者	1 (兼務)		1
生活支援員	1	2	2
作業指導員	1	1 (兼務)	1. 3
医 師		1	1
看護師	1		1
事務員	1 (兼務)	1 (兼務)	—

⑤ 健康管理

◇ 健康管理面での実施事項

- 日常の作業、他の活動を観察し体調管理、状況に応じその都度対応する。
- バイタルチェック、健診結果で気になる利用者は、ご家族に注意事項を含め連絡し、対応してもらうよう促している。
- 既往疾病にて治療中の利用者については、家族より家庭での様子を伺い、施設で可能な範囲内で対処している。

イ、バイタルチェック（生活介護：週1回、就労B：月1回）

ロ、利用者健康診断

（実施日：H27. 6月19日・26日・7月3日）

ハ、職員検診

（H28. 1月13日・15日・18日・20日・29日）

ニ、医師定期健診

（月1回：2名問診、他スポット的に心身両面で気になる事の指導を受ける）

ホ、日常的健康管理を要する利用者

- 血糖値管理（1名）
- 服薬管理（昼食前薬2名：①漢方 ②降血糖剤、精神安定剤1名）

へ、平成27年度の特記事例

○ 利用者A

6月12日～8月30日まで利用休止(下肢創傷手術、治癒のため)

その間、自宅訪問・TELによる症状確認（1回/週）

○ 利用者B

（2月/8日、3月/2日、4月/1日、利用休止：てんかん発作のため）

他、大発作2回、内1回は救急搬送、

ト、今後の課題

- 引き続き、家庭との連絡を密にし、心身共に健康維持が図れるよう、日常生活を通して援助していく事が重要。

4、日中一時支援

平成27年度の日中一時支援利用者は以下のとおり

利用時期	利用期間	利用実人数	利用延日数
夏休み	7/21～8/14	1人	17日

5、実習生受け入れ状況

受入れ期間	受入れ日数	受入れ人数	実習依頼先
平成27年5月15日～5月29日	11日	4名	山田養護学校
平成27年6月8日～6月12日	5日	1名	〃
平成27年10月19日～10月30日	11日	5名	〃
平成28年1月12日～1月15日	4日	1名	〃
合計	31日	11名	

6、ボランティア受入れ状況

月別	人数	備考
4月	12名	個人ボランティア
5月	11名	〃
6月	19名	〃
7月	17名	〃
8月	6名	〃
9月	14名	〃
10月	3名	〃
11月	1名	〃
12月	3名	〃
1月	2名	〃
2月	0名	〃
3月	3名	〃
合計	91名	

平成27年度は、団体及びグループとしてのボランティアはなく、むしろ個人の

ボランティアの方々に助けていただいた。特筆すべきは個人で前期の職員数ギリギリ状態の時から連日足を運び、箱折作業を利用者と共に1年間を通して取り組んでくれた方。

また、施設内の不要物の処分や、重い荷物を運搬する時などに軽トラックを使って、快く運んでくれた方々。また、理事の方にも同様に施設の重量物を移動する際、助けていただいた。

また、昨年記録の不備の指摘を受け、支援費の一部返還を余儀なくされた事を受け、他事業所の方に諸記録のチェックおよび記録記入時の留意すべき点などの指導を仰ぎ、記録の重要性を共通認識した。

7、総 評

以上の報告のとおり、この1年間は経営体制・運営体制の形を整えることが課題であった。まだ十分とは言えないが、なんとか形が整いつつある。

施設経営面では、最優先課題として取り組んだ利用者の確保も、年度当初の目標値一年間で利用者倍増、8名⇒16名としていたが、8名⇒15名と、ほぼ目標値に近い利用者確保ができた。

しかし、まだ経営面では単年度収支はマイナスであり、引き続き利用者の確保に努め、早期の経営安定化を図らなければならない。

一方、施設運営面では、運営管理のあり方、意思決定手順のあり方で改善すべき点も課題といえる。

この一年間に、新たにコーギーに仲間入りした利用者の方たちも、それぞれの個性を活かしながら、施設に適応できてきているといえる。

今後も継続して、利用者の意思・願い・判断を何よりも大切にしながら、スタッフ一同、より適切な支援に努めたい。

また、この一年はスタッフもほとんどの者が、コーギー入職1年前後の者ばかりで、まずは施設・利用者に慣れることからのスタートということもあり、資質向上のための研修に取り組めなかった。

28年度は、スタッフ研修の実施が課題である。